

第32回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年8月2日 18:30~20:00

場所 茶屋町公民館

要約版

《市長》

皆さんこんばんは。夕方のお忙しい中お仕事終わられまして帰られる途中ですとか、本当にお忙しい中、この市民ふれあいトークにお集まりいただきまして、誠に有難うございます。この市民ふれあいトークは以前確か茶屋町に、約1年半前にお伺いをいたしました。その後各中学校区の大きな公民館を順番に市内の全体で行っておりまして、こちらの茶屋町にまた回ってきたことになっております。これから大体8時前くらいまでの間まず私から最初に倉敷市の最近の状況などについてご説明を申し上げまして、この茶屋町地区の状況をご説明申し上げて、その後皆様との間で色々な意見交換をさせていただければと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。まず、皆様の一番関心が高い事項に、東日本の大震災に対する倉敷市の取り組みというのがあるのではと思っております。最初に、倉敷市からの現地への支援の状況などについて、少しお話をさせていただきます。

3月11日に災害が起こり、倉敷市はその直前に市の姉妹都市でありますニュージーランドのクライストチャーチ市で、大変大きな地震が起こりました。日本国内で、唯一の姉妹都市が倉敷市でございますので、何とか救援活動に行かなければということで、消防局をはじめ、遠いので人数は少ないんですが、3名を現地に派遣をいたしまして、約10日手伝いをいたしまして、こちらへ帰ってきておりまして、やれやれと思っておりましたら、災害が起こりました。それで、3月11日の皆さんと同じ様にテレビを見ており、これはとんでもないことが起こっているということで、直ぐ準備に取り掛かり、まだ行く場所も決まっていなかったんですけど、翌日の12日の早朝に倉敷市の全消防局から精鋭部隊を集めまして、救援活動に参加をするということで出発しました。最初23名、市の消防車、救急車、工作車といたしまして、シャベルとか器具をいっぱい積みまして給水活動の車と現地に行き、途中の名古屋くらいで、宮城県に行くということが決まり、それ以来今に至るまで、そのままずっと人がいるわけではないですが、大体2週間交代とか、それから長い人では1ヶ月交代ということで、一番ずっと人数を送っておりましたのは、宮城県の松島町、日本三景の松島ですけども、そこに倉敷市の環境局から、総勢で約72人、行きまして、向こうに長い人で1ヶ月以上滞在しまして、松島町の災害のガレキは、全部倉敷市が片づけをいたしました。それで、実は後日談がありまして、最初は岡山市と一緒に行ってたんですけども、岡山市は元々の約束が5月までということになっており、途中で帰ってしまうことになりまして、現地のうちの職員さんたちから電話がかかってくるので、岡山が帰ってしまうんだけど、我々が帰ってしまうと、とにかくかわいそうなんで、何とかせんといかんと思うんで、我々だけでも残って、もうちょっとがんばりたいと思うんですけど、という話だったんです。それで、あと1ヶ月ほど延長しまして、全部松島のゴミは撤去いたしました。我々の思いは、同じ観光地ですので、松島が復興の姿をテレビとかで、遊覧船が始まっているのを見られた方もいらっしゃると思いますが、それが進んでいけば、東北の復興の一つの大きな力になれば、と一生懸命がんばった所でございます、医師、保健師を派遣し、総勢で市の職員約200名が、現地にこれまでにしております。

それから倉敷市からの支援は、市の職員さんだけの支援ではなくて、市民の皆様のボラ

ンティアの方が現地に行ってくださいっております。市でバスを出しまして、向こうで市が岩手県に倉敷市の拠点を早い段階から構えまして、そこに泊まっていたいで活動をするというのをずっと最初からしております、今、約300名近くの倉敷市民の皆様が向こうに行って、大体1週間活動して、そのバスで帰ってくるということで、週にいつぱいバスを出しております。秋ぐらいまでは、続けていきたいと思っております、現地からも倉敷市は本当に遠いのに、がんばってくれていると、感謝を頂いているという話が入ってきております。本当に多くの市民の皆様からの義援金は全体で1億7千万円集まりました。それを現地のそれぞれの県に配分しまして、直接県の口座に振込みをしまして、もうずいぶん県の方から、それぞれの市民の皆さんに配分をされていると伺っております。当初からの支援物資、先日も、夏の間は緊急に1週間ほど、夏用の半袖シャツとか皆様にお願ひしました。1週間で約1万枚集まりまして、それを現地の岩手県や宮城県、それから福島県の皆さんが今、原発の関係で埼玉に全部避難されておまして、服が無いということで、こちらにも1万枚の内、大体3千枚位を、福島県の二葉町が埼玉県内の高校に全部避難されております。そこに持って行ったりして活動しています。これまでに11の東北の市と3つの町に対して、支援をしておりますが、これからもまだまだ支援する、一生懸命やっていかないといけないと思っておりますし、逆に向こうからこちらに、今約70名の方が倉敷市に避難されてます。市営住宅だったり、市が持っております公営の団地だったり、ご親戚の所に避難されている方など合わせてそのくらいいらっしゃるしまして、市内の幼稚園や小学校などにも、子どもさんが通っていらっしゃるという状況になっております。この東日本の震災、倉敷市は県と合わせて一生懸命引き続き支援を行っていきたくと思っております。

そこで、この茶屋町地区の防災について最初に少し申し上げたいと思います。各ご家庭に、確か3年ほど前だと思えますけれど、防災マップの津波のハザードマップを配っております。見たことがあると思われる方は手を上げていただけないでしょうか。有難うございます。大体、半分ぐらいの方でございます。これがこの茶屋町地区のマップで、この青いのがお家に配られております。この中に載っておりますここが茶屋町の駅でございます、もし東南海、南海地震が起こったら、こちらの茶屋町地区が、もしも児島湖の堤防を越えて津波が来た場合に、この青い所が大体、2メートル位浸水するという地図です。それで緑の所は大体1メートル位、この黄色い所は、0.5メートル位浸水するという事で、ただ、津波が来るといっても地震が起こってから2時間半ほどしてから、倉敷市の沿岸部に来ます。児島湖の堤防を越えたら、こういうふうに来るということですが、これも今見直しを実はしております。国でも、今回のような大変な地震が起こった時には、東南海、南海地震が2つ起こった場合ですけれど、もう1つ東海地震も合わせて起こりましたら、この倍とかのものが、もしかしたら、来るかも知れないという様な計算をして今国が準備をされております。市も、まだ国の分は出てないんですけども、その中で、もしも倍の所が来たら、どの様になるか、この地域も色がたぶん青になると思うんですけど、その様な観点の見直しをしております。こう矢印とかが書いてありますけれど、これは当茶屋町地区でもし高台に逃げるとしたら、多津美中学校とか、天城高校とか、よく御存知で住んでいらっしゃるの判ると思えますが、茶屋町は非常に平坦な土地でございますので、高い所に避難場所が無いわけでございます。そこに気をつけて今後の避難計画をしないといけないと思っております。今の計算でも津波が来るのは2時間半ほどしてからでござ

いますので、2時間半あれば、この天城、多津美、岡山学院大学とか、岡山の短期大学などあります。帯江、豊洲小学校等もありまして、時間は充分にありますけれども、なるべく車で逃げずに歩いてこの高台に避難していただければと思っております。今この地域の中で、茶屋町の小学校がございまして。比較的高い建物でございましてけれども、もし津波が2倍になったら茶屋町小学校の何階以上は大丈夫だとか、そういう見直しを行っております。そのあたりの所が、7月中ぐらいに調査をしておりますので、8月中ぐらいには皆様にお知らせできるようにと思っておりますけれども、津波の対応の見直しをしているところでございまして。他の地区の皆さんも、いらっしゃるかも知れないんですけど、児島、水島、玉島にも沿岸部がありまして、いずれも同じ様に約2時間半後位に、津波が来る予定となっております。それぞれの地域で、避難場所の見直しをしておりますので、またお知らせをさせていただくことになると思います。

一昨年、行いました市民ふれあいトークの時から、この地区の進展状況についてお話申し上げたいと思います。前回この場所で行いました時に、皆様から大きな点として出たのが、一つは茶屋町小学校のこと、この茶屋町公民館の図書館のことが、大きく出たと思います。子どもさんの通学路のことなどもご要望も頂いているわけですが、その辺りについてご報告をさせていただきたいと思っております。茶屋町小学校は、今倉敷市内の小学校の中で、一番人数が多いマンモス小学校となっております。住んでいらっしゃる方はよくお分かりでいらっしゃると思いますが、人口も非常に増えてきておまして、それに加えて小学校1年生の35人学級というのが、出てきましたので、小学校の校庭に、大変恐縮でございまして、プレハブを造って教室を増やして当面の対応をしております。そのことについてのお話が、前回のこのふれあいトークの時に出まして、今回の6月の市議会の時にご質問を頂きまして、茶屋町小学校の中で耐震をする建物、それから今使う内容として、ご存知のように体育館が2つあるわけですが、その見直しをいたしまして、古い方の体育館を今度替えて、そこに新しく教室棟を造る計画をしていけるようになりました。まだ具体的に何教室とか、何階建てとかは決まっていらないんですけど、この茶屋町小学校の中の再編をしていく予定といたしております。色々、分離校が出来ないんだらうか検討もしてみたいんですけど、この地区の中で、小学校の規模の土地を確保するのは難しいことと、学区の関係で東の端が岡山市ということもありまして、分離をすることは難しいので、今の敷地の中で、見直しをしていきたいと思っております。また、小学校で皆様にご説明をしたりご意見を伺っていきたくと思っております。

それから、もう一つは、1階の図書コーナーのことでございまして。前回も図書のコーナーの本が非常に少ないとか、それから本の配達数が少ないというお話を随分頂きまして、あれからまず見直しをいたしまして、蔵書を約千冊近く増やしております。

それから、これまで週1回、中央図書館から本の配達をガバツとしていたわけですが、それを週3回にいたしまして、なるべくタイムリーに本が来るということと、いっぺんにもものすごく来たら事務所も混雑しますので、そうならないようにしているということ。それから新しい本をなるべく読みたいという御要望を頂きましたので、それを充実いたしまして、前の時には1年間に入る新刊が百冊ぐらいだったんですけど、それを今5倍位の500冊位に増やしております。ご要望がありましたら、なるべく茶屋町に優先をしてということで、考えております。その時にも、この図書館の拡張とか、図書館を新設できないかどうかとかのお話も頂いたんですけど、まだその検討までは、行っていないので

すけれども、市としてもこの茶屋町の図書の課題が多いということは、ここ数年の傾向を見て判ってきておりますので、少しずつでも何か改良が出来るものが無いのか、引き続き検討をしていきたいと考えているのが、この小学校、この公民館の図書コーナーのお話でございます。

今日は、地域力を活かすまちづくりという事でございまして、今茶屋町の地区のことを申し上げたんですけれども、茶屋町の地区につきまして、私が思いますことは、本当に活気のある地区であると思っております。活気があるということは、第一には人口が増えている地域であるということ、それは市内の他の地域では、そんなに今増えておりません。この茶屋町の地区は、非常に人口も増えてきておりまして、その分なかなかコミュニティの部分など難しい点もきっとあると思う訳でございしますが、人口が増えて活気が非常にある地区だと、他の地区との関係では思っております。市内の色々な企業で働かれる皆様もたくさんお住まいでいらっしゃる、またコンビニートに通勤されている方もたくさんいらっしゃると思います。最後に、コンビニートの地域、それから倉敷市内全体の最近の話題について、いくつか触れさせていただきたいと思っております。この春に、ここ数年、倉敷市がずっと要望といいますか、取り組んできました大きな事が2つ実現しております。

1つ目が、この3月に玉島のハーバーアイランドに、飛行機の産業が来る事が決まりました。日本エアロフォージといまして、実は倉敷市と岡山県とで協力しまして、誘致活動を行いまして、飛行機で有名な愛知県と競争しまして、倉敷市に引っ張ってくることにになりました。今まだ、1つの会社ですけれども、航空機産業は非常に幅の広い産業でございます。ですので、今、皆様が携われている産業の中でも、飛行機というのは何万点もの部品で出来ておりますので、この倉敷地域は基本的には、地震も少なく安全な地域だということで、東海地震が起りそうな場所からシフトをして、こちらに段々来られるんじゃないかと思っております。それが倉敷市にとりまして、大きな新たな産業が来たということが、1つあります。

2つ目が、水島の港がこの5月末に、日本国の中でも港として集中的に色々整備をしていく地域として選ばれた国際バルク戦略港湾に、指定をされたというのがございまして。このバルク戦略港湾に指定されますと、国からの色々な整備とかが、どんどん出てくることに今後なっております。その水島の部分と玉島のハーバーアイランドの部分をつなぐ新たな橋も、今度出来ることになっておりますので、倉敷市内全体としては、私は産業の活性という方向に、向かって行くのではないかと思っております。まだリーマンショックの経済から良くなってない部分も多いのですが、全体としては今後そういう方向に、向かって明るい要素が、いくつか出てきているのではないかと思っております。

それともう1つは、市内の中でいくつか大きな商業施設の出発とか、新設、再編などが起る予定になっております。この近くでいきますと、セイショクさんの跡地のジュンテンドーをはじめとする大きな地域、今の酒津の辺りでいいですとイオンが、確か9月か10月位に増床されることになっております。もう1つが倉敷駅の北のチボリの跡に、三井アウトレットとイトーヨーカドーが来られることになっております。チボリの一面をクラブウさんから市に譲っていただきまして、駅前倉敷みらい公園といえます公園を整備することにしております。ここが、倉敷駅の辺りでございまして、この肌色のところがヨーカドーさんの部分、それからピンクの所が三井のアウトレットが来られることになっておりますが、市としては何とか、駅前に緑の空間を造りたいという事で、クラブウさんから、

この1ヘクタールの土地を譲ってもらいまして、真ん中に倉敷市の倉敷用水ですけれども、ここの部分と合わせて2ヘクタールの倉敷みらい公園を整備することになっております。防災の公園にも使っていこうと思っておりますし、勿論、水と緑の公園にしたいと思っております。この整備費用でございますけれども、駅前土地だったので、クラブウさんから譲ってもらうのに、結構高かったんですが、1ヘクタールで約10億ちょっとかかりました。全体の整備費用を入れまして、15億数千万の費用でございますが、その内、市で国から緑の補助金などを今回引っ張ってきまして、倉敷市が払わないといけない金額は、約2億数千万円で済む予定となっております。倉敷に来られる皆さんが、是非この公園なども見られながら、そして特に重要なのが、こちらの倉敷の駅の南の地域との、こちらの美観地区に行って頂かないといけないもので、この駅の北と南の流通を良くするために、今、寿町の踏み切りの工事に取り掛かる予定ですが、最初やはり混むと思っておりますけれども、なるべく混まないように随分、事業者には言っておりますけれども、なるべく混まないように対応をしていきたいと思っております。

大体、倉敷市全般の概要、茶屋町地区の前回からの、大きな市としての変化の部分などについて、ご説明をさせていただきました。皆様から、茶屋町の地域づくりについての色々な御意見、御質問などを頂ければ有り難いと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

《参加者 A さん》

茶屋町小学校のことでご普請いただいておりますことをありがたく思っております。この間議会便りを拝見しまして議員が非常に心を砕いて茶屋町地域のことに骨折ってくださっておる。小学校のことについても、色々質問もなさっておられることを拝見しております。茶屋小が、どこまで児童増があるのか、計算上天井をうつことがあるのか、伺っている範囲では、1,300、1,400あたりにはなるのではないかという若干の予測も伺っておるんですが、市長がおっしゃった茶屋町小は分離の問題ということで、新しい土地を確保することは、100%困難だと思います。今の地域の全体から、小学校へ通って来ておりますから、子ども達は北からも南からも茶屋町小に来ることについては、不便を感じません。敷地内での、再編成を考えるとおっしゃってくださったその敷地内でのというものが、今増築については、明快な御回答を頂いております。もう1つ、分離ということで地域を茶屋町の北と南に分けての土地を確保しての分離は、無理ですけれども、学校経営上、子ども達の教育の効果を考えた上では、校舎の増築だけでは、対応しきれないものがあるのではないかと感じておるんですが、そうしましたら地域の敷地の中で、学校を2つにするとか、或いは若干の土地が得られれば、その周辺を確保していただくと。そういう方式でいえば、福田中学校、福田南中学校がやられた方式です。そういう事が茶屋町で出来て、或いは教育力を低下しないように、学校分離を考えていただけるのかどうか、現在の校舎増築だけで、それで教育力が確保できると、お考え頂いているのかどうか、そのあたりのことを、ちょっと懸念しておりますので、伺いたいと思っております。

《市長》

まず茶屋町小学校の人数のことなんですけれども、今現在、今年度が1210人でございます。今から6年先位までしか、なかなか判らないものですから、地域の中で子どもさ

んの生まれられた数等の計算をしております、今Aさんが、言われたとおり大体1, 300から1, 400位に、ここ5, 6年の間は増えていくのではないかという事が、はっきりして来ましたので、今回、プレハブで行くというわけにはいかないなと考えて、市議会の先生方と相談しまして、本校舎の建物にしようと考えている所でございます。時期については、なるべく早くと思っておりますが、地域の皆さんと、校舎の配置について考える必要があるので、今年、来年から直ぐ工事という訳には行かないんですけど、なるべく早くと思っております。今言われました敷地のことなんですけれど、1つの学校の中で分離が出来るのかを、私も教育委員会から詳しくはその部分を聞いていないんですけど、敷地の面積的に、難しいと思っております、今考えておりますのが、具体的にはなっていないんですが、この茶屋町小学校の敷地の中に色々な建物がございます。考えているのは、旧の体育館の建替えをして、教室にするということが一番大切だと思っておりますが、横には東幼稚園もございます。そこも公共施設であるということなどもありまして、敷地の中にあります建物の今後の対応年数とか、そういうものも見まして、敷地での再編成を検討中なので、何とも申し上げられる段階ではないんですけど、今後の人数の予測と、1個の旧体育館の所だけで、うまくいきそうなのか、それとも敷地のどれかの分をもう1個位する必要があるのか、耐震工事のこともありますので、基本的には敷地の中で再編成をするという方向で考えざるを得ないと考えております。

《参加者 A さん》

再編成というのは、校舎を増やしていただくことにとどまらず、学校経営が2つになるように、校長も2人おる。校舎は今の校舎で足りないものは、足さなきゃいけませんけれども、福田中学校と福田南中学校が分離したのは、同じ敷地内、或いは若干のその周辺を買い取ったことで、経営を2つ、運営が別々に出来るような、学校経営、運営が出来る、そのことが学校の子どもの教育力に大いに影響があるので、そのことが選択肢の中に、入っているのかどうか、それが知りたい。

《市長》

今のところは私が教育委員会と話す中では、学校の規模からいって、2つに分けますと土地がより必要になってきます。どこか遠くというわけには行きませんので、直ぐ自分の学校の部分は、自分の学校だけで、特別教室なり全部持たなければいけないので、面積的に今のところ難しいのではないかと考えているのが現状でございます。福田と福田南の事例も言われましたので、そのこと等も、勉強してから、国から色々補助金を貰える分じゃないといけないので、それも見まして、計画について、地元の方に御説明させていただければと思っております。

《参加者 B さん》

今日はコミュニティ協議会を通じての色々な質問をしてみたいと思います。茶屋町は今、約6千世帯のコミュニティという事で、市役所から120万からのコミュニティ助成金を頂いているんですが、それについて色々質問してみたいと思います。今月の広報くらしきを見まして、9月の第1週の内、全市一斉のクリーン作戦というんですか、これの御案

内が無かったということ、先日、御相談したんですけど、茶屋町の6千世帯の、実際にはコミュニティ協議会、町内会に入っているのは4,800、約5,000位しかいないんですけど、周知徹底が出来ないんです。回覧板が10日も、20日もかかって回っている。ということは、広報なり、そういう全市の行事については早めに連絡して欲しいので、今月号に載せて欲しかった。

それからもう1点は、地区の社会福祉協議会の設備費というのを、去年、おとしから色々働きかけがあるんですが、今月の市議会便りにもありましたどなたか議員さんが質問されておりましたが、いわゆる何処に誰がおるとい個人情報がどうなっているかということで、茶屋町にも大きな問題があるようなので、民生委員さんたちにも色々問題があると聞いております。地区社会福祉協議会を作るとすると、おいしい話がありまして、70万、80万の補助をくださる。それを使わなくちゃいけないので、非常に人材も少なく、地区社会福祉協議会の設立に、今、一步退いている状態です。だからコミュニティ協議会と地区社協との違いというのを、他の地区の話があったら教えて下さい。

もう1点、茶屋町駅が20年ほど前に高架になりました時に、駅から出るのが東と西に出れるようになったんです。ところが、茶屋町の年寄り、今日も大勢年寄りが来ておりますが、駅の表、駅の裏といういい方をしてたんです。老人会の方たちが中心になって、東口、西口にせえと、ずっと何年もJRと交渉してたんですけども、埒が明かなくて、昨年度のコミュニティの会計で小さい看板ですけども、まず東口、西口の周知をしようという事で、看板を作りました。そうすると市役所の市民活動推進課が、コミュニティの予算の精査をするんですが、こういう資金的な支出には認められないということで、3万円ほどの看板代が蹴られちゃったんです。コミュニティのお金というのは、百万から頂いても使わないものは返すと、これは今の時代だからそうだと思うんですが、その看板代の3万円を何とか認めて欲しい。今後、看板も色々作りたいんです。今のこのハザードマップじゃあないですけど、避難場所とか、各町内で皆さん考えられているので、そういうふうなのをコミュニティのお金で使っちゃだめなのかと、看板を作っちゃいけないのかと、それを今日、結論が出ないようでしたら、働きかけていただけたらと思います。

この3点ちょっとお願いいたします。

《市長》

最初の9月のクリーン作戦のゴミゼロキャンペーンの日にちだと思いますが、いつもは8月号に載せているのではないかと思うんですが、今回は、載っていなかったという事で、大変申し訳なかったと思います。紙面の都合だと思うんですけど、来年から気をつけるようにします。それで、9月4日の日曜日に開催をすることになっておりますので、また公民館などでも、貼り出しとかをしてお知らせをするようにしたいと思っております。

それから地区社協の設立ですけども、これは市内全体の課題でもあるんです。地区社協の設立は、主に福祉の面に力を入れた、福祉、地域の繋がりに力を入れたということになりまして、市内でも、数は忘れたんですけどここ数年、随分増えてきております。今言われましたように、補助金が出るから作れということでは、それが動機というのは良くないと思いますので、よく地区で御相談していただいたり、社会福祉協議会の事務局がありますので、よく聞いて、地域で目指す福祉に使いやすいと思ってくださったら、申込をしてくださればと思うんですが、県全体の社会福祉協議会とか、福祉の面、厚生労

働省等から、国としての地域の繋がりが薄まっているという危機感だと思いますけれど、国、県というふうに、地区社協を市内全体で、なるべく作ってもらいたいと言われて来ているのも、市として、市の社会福祉協議会として、皆さんにご説明を、勧誘じゃあないですけれど、大きな要因になっていると思いますが、言われるように、補助金を貰ったら、報告もしないといけないので、手間も有ります。事務局でいらっしゃるので、そのあたり大変だと思いますので。使って頂き易いような部分のメニューからでも、取り入れるという気持ちでというのも変ですけれども、御検討いただければどうなのかなとは思いますが。社会福祉協議会から、色々御説明に伺っているんですよ。市として、必ず作ってくださいと言えるものではないので、お返事が変で恐縮なんですけれど、その中で言われた個人情報問題になっているのが、やはりあります。今市議会でも議論になっておまして、個人情報が民生委員・児童委員さんや福祉の、この社会福祉協議会の関係で個人情報が出さなかったら、活動が出来ないんじゃないかという事がありまして、今、市の個人情報保護の審議会というのがあるんですが、そこに架けてもらっておまして、こういう場合だったら個人情報を出してもいいというのをもう1回、福祉の分だったら出しても私も基本的にはある程度は可能じゃないかと思っておまして、そういう面をもっと規制緩和というんですか、して貰える様にといい思いは有ります。

それで、最後の3万円のコミュニティの活動の補助金が下りなかったということですが、私も詳しくその3万円の内容について、聞いて来てなくて恐縮なんですけど、コミュニティの活動に資するもので、基本的にはソフト事業に使うって貰いたいというのが、コミュニティの補助金なんです。駅の東口、西口というのは、看板になりますよね、そうすると、それがコミュニティの活動なのか、JRの駅の宣伝の場所なのか、その辺りじゃあなかったかと思うんです。それは22年度ですかねえ。3月ですね。コミュニティの分では、防災の活動の物については補助が出来るということに確かなっていると思うんですけど。

《参加者 B さん》

永久的に残る看板は、いけないという説明を聞きました。それは直して欲しいと思います。

《市長》

今お話を頂きましたのも含めて、規制が厳しいということですね。担当部局と相談をしてみたいと思います。なかなか難しい点もあるかと思いますが、ご意見を頂きましたので、コミュニティの活動に資するようなもので、今回3万円ですけど、何十万円もじゃなくて、いくらまで可能ですとか、そういうのができないかと思っておりますので、聞いてみます。

《参加者 C さん》

茶屋町小の出なんですけれども、体育館がありますけど、あの体育館2つは確保できるんですかねえ。

《市長》

今古い方の体育館を壊して、設計を。教育部長、新しいのは、そのままですよ。古いのはどうするかというと、再編の中で検討するんですけどよ。

《参加者Cさん》

体育館2つは不可欠です。

《市長》

人数が多いからです。

《参加者Cさん》

それと地域のクラブチームが沢山あるんで、なかなか使えない状況です。それと、〇〇小学校は空き教室が沢山あるということで、聞いているんですけど、茶屋町からスクールバスを出すとか、というのは無いんですか。

《市長》

つまり、学区を変えるということ。

《参加者Cさん》

希望者に行っていただけたら。そうすると、割りとゆったりと学生生活が。

《市長》

今、学区が基本的に通学区域で別れていまして、特段の事情がある場合には、別の小学校に通うことができるのと教育委員会が認めるのは出来るようになっているんですけど、それで、1つには勿論希望する小学校に、もしくはもっと、余裕がある小学校に通いたいという方もいらっしゃるんですが、一方で通われる子どもさんの地域、つまりコミュニティの中で、自分の子どもが、隣同士の子どもの違う学区に通われるというのは、問題になる場合も有りまして、なかなか今のところ、空いている学校にスクールバスというのは、出来てない状況なんです。

《参加者Cさん》

それともう1個、私、鷺羽山ユースホステルを運営しております、ちよくちよく茶屋町から鷺羽山までウォーキングしてるんです。大変安全で好評なんです。もう少しトイレとか、児島湖で430号線沿いに1個横断歩道を作ってもらえば、昔の下電跡が、ほぼ完璧に再現できるんです。ちょうど下津井までが21キロぐらいで、ジョギングとか、マラソン大会とか、茶屋町発のレクリエーションを提案していきたいので、御返事を頂けたらと思うんですけど。

《市長》

ちょっと直ぐには答えられないようで、何でございませうが、御意見いただきましたことは、しっかり頭に入れまして、今年で下電さんの百周年ですので、そういう中で下電の跡地とか、今、児島ではやってるんですけども、下電のルートの跡地について、何か今後出来ないか検討もしていきたいとは思っています。直ぐに答えられなくてすみません。

《参加者Dさん》

さっき言われたごみゼロ、あれは最終的に8日の日に寄って、細部を詰めるんで、広報で出すのは、勿論市長さんの落ち度と思いますが、私が行動に移すのは、8日の日に決めますので、あんまり早くやっても、その時は9月の4日ですから、忘れてしまうかも判りません。普通は忙しいから、忘れてしまうと思うんで。では本題に移ります。

茶屋町は市長さんが立候補される時に、農協で挨拶されて倭さんのあれで、私、その時に質問したんですが、優等生の御回答を頂きました。茶屋町をどのように将来していくのかと聞いたら、何と答えられたかと覚えておられますか。

《市長》

そこまでは、記憶力が。

《参加者Dさん》

まあ、そうでしょう。まあ、そうでないと、忙しいし、そんなことばかりでは。ライフラインを整備すると優等生のお答えをされました。私は、そこで来期、また近いうちに選挙があります。有るんですかね。

《市長》

来年の予定でございます。

《参加者Dさん》

今度はですねえ、茶屋町に1つ目玉として予算を付けていただいて、大きな事業、茶屋町にはこれがあるぞと。茶屋町には鬼がおるぞと。鬼はあまり経済効果が無いので、そこら辺をお願いしたい。今、防災一色になって、市長さんも行かれたわねえ、現場に。市長さんが行かれるのは、名前を売らにゃあいかんというのも有るけれども、菅さんじゃあないけれど、あまり行かれん方がよろしい。動かせるのは、沢山おりますからね。防災関係の方もいらっしゃるだろうし、私はそういうふうに思います。何でそんなことを言うかと言うと、それは話が長くなると思うんで、それは省きますが、経済の活性化、これが一番。そっちを防災にかまけて、今、玉島と水島と言われた、それを足がかりにどんどん。無い袖は触れんからね、無い袖に袖を付けるようにお願いしたい。それが今日のテーマに合うんじゃないかと。1つ目玉を茶屋町にお願いします。

《市長》

はい。有難うございました。今言っていた中で、私も最初言うのを忘れていたんですけど、公約の中で、1つ非常にお金がかかる事業がありまして、それが今年4月から開始したんですけども、子どもさんの小学校6年生までの、病院にかかった時の医療の公費負担を100%にするという分でございます。この近くでいうと、同じぐらいの大きさの岡山市は、なかなかお金が無くてされてないんですけど、倉敷市もそれをやるだけで10億円近くお金がかかるので、公約だから直ぐやれるかといったら、お金の今後の見込みが判らないと、出来ないものですので、ここ1年、2年、今言っていた、職員の数を実画的に、退職の方がいらっしゃると思うので、なるべく減らして行ったり、それ

から、行革で無駄を省くとか、借金を返したりとかしまして、今後目途がついたので、今年から子どもさんの医療費についての公約を導入いたしました。それには、今、ゴミを減らすというところも非常に大きなことをございまして、よく、岡山の茶屋町寄りの方から聞くんですけど、ご存知のように岡山はゴミが有料でございまして、うちのゴミは一応無料でなんとか頑張っております。

医療費についても岡山より倉敷市の方が随分手厚く出来ているんですが、これもゴミを皆さんと一緒に分別しようとか、減らして頂いているので、その分のお金をこっちの医療費に、振り向けられたり出来るわけなんです。一応、倉敷市のゴミが無料でも、皆様の御協力のおかげで、少しずつ減っております。減っている間は、何とか無料のままで行きたいと思っております。ただ増えてきたら、有料化の危機が訪れますので、是非御協力を頂いて、順調に減っていくように、皆さんの御協力を頂いていきたいと思っております。そういう所を見ながら、市の全体の政策をやっております。

今言われた茶屋町に、何か目玉というのが、直ぐに何と答えられないのが恐縮でございますけれど、ライフラインということで、防災だけということではないんですけど、今考えつつあるのは、さっきから話が出ておりますが、茶屋町小学校の新しい部分が、建て替えとかが出来るようになりますので、そういう部分などで他の地区には無いような機能なども導入できないだろうか、漠然としておりますけれども、何と言っても茶屋町小学校は、地区の要の大きな公共施設でもあると思います。そういうことも考えていきたいと思っております。

まだまだ、考えがまとまっていない所もありますが、そういうふうに考えております。

《参加者Eさん》

家が駅に近いので、あそこの花の水遣り、鬼の広場辺り、掃除など老人会の一員として、協力させてもらっております。良く駅へ出かけるんですけども、散歩がてら、シルバーさんが自転車の整理をして下さっております。以前は暇な時にタバコを吸ったり、市の職員かということで、言われたこともあるんですけど、最近は、もうここ十年来、びっくりする位、朝7時から10時までやっております。そして自分の仕事以外の、タバコの吸殻とか、海の広場の清掃までやっております。非常にありがたいです。

ところが、今年度の4月からだと思っておりますけれども、これはこれでありがたいことなんです。警察だろうと思っておりますけれども、シルバーさんを主として、ずっと十何年来、自転車の整理です。子どもへの話しかけであるとか。ところが今年度の4月から、防犯の目的で自転車置き場を、警察だろうと思っておりますけど、8時から5時ごろまでやられております。従いまして、朝2時間少々は仕事の内容が集うわけなんです。片一方は防犯が主です。片一方は自転車の整理が主です。両方とも倉敷の東の玄関口の茶屋町にとっては、有り難い事なんです。ところが、土曜日、日曜日はお休みになるので、あの周辺が無茶くそになります。自転車を無駄に放置しておくとか、そこの所のお話し合いで、時間を調整して下さるとか、土曜、日曜へね、残った時間を無理に朝2、3時間集う必要は無いと思っております。正直いいまして、所管が違いますので、片一方は警察、片一方は市、シルバーセンターの所属です。シルバーセンターと市がどういう繋がりがあるか、私は良く判らないんですけど、そういうことでお互いが、仕事をしながら牽制し合うということも正直な面があるんです。ですから茶屋町の駅、東玄関口を綺麗にさせていただけるのは結構なん

ですけど、現状がそういうことで、それだけ余分な集う必要の無いと思うんで、もしもそういう時間があるなら、土曜、日曜へ予算があれば回して頂くとかしたら、茶屋町の駅周辺、特に西口を中心に、綺麗な町、綺麗な自転車置き場が、出来るんじゃないかと思えます。そこのご配慮が出来る範囲で、よろしく願いいたします。

《市長》

はい。貴重なご意見有難うございました。また、シルバーの皆さんの活動を褒めていただきまして、有難うございました。シルバー人材センターは市が一部出資をしまして、作っております団体ですので、市の方からも今褒めていただいたことも、伝えたいと思いませんし、言って頂きましたシルバーの人と防犯の人、警察の関係だと思えますけれども、私も知らなかったものですので、事情を聞きまして、それぞれ役割分担が出来るのかどうかを、調べてみたいと思えます。もしかして、警察なのでこれしか出来ないといわれるかも知れませんが、まず、どういう状況かを調べて、改善が出来ることなら、してみたいと思えます。

《参加者 F さん》

最近、市役所のホームページを良く見るんですが、その中で特に市長の「ようこそ市長室へ」というあの出来事のところを良く見させていただくんですが、こういう市長ふれあいトークの勉強になるんですが、市長さんは、皆さん我々市民がどういうことを考えているのか、聞いて市政に反映されていると思うし、我々市民としては、市長さんがどういうことを考えて、市政をやっておられるか勉強になるんですが、ホームページを良く見ていると、先ほどからよく出ている震災のこととか。

昨日、市役所2名の方に町内に来ていただいて、これから夏にかけて、衛生上良くない所があるので見て頂きたいと言ったら、直ぐ飛んできて下さいまして、普通、市役所なんかは縦割り事業で、環境とか、土木とか色々ありますよね、それは市民にとっては、市役所の内部のことであって、実際にこういうことで見て欲しいということであれば、かまわんのじゃないかと、直ぐ見てくれました。実際、現場を良く見ていただいて、そういうことをどんどん言ってくれる市民がいた方が、市の職員として、良くわかる、現状が。これからどんどん言ってきて下さいと、僕も非常に要らんことを言うたかなあと思ったんですけど、喜んで来て、直ぐ対応させていただきますと言われたので、だから我々はもっと、言葉は悪いですけど市役所なり市長を有効に使わせて頂いて、我々市民のために働いて頂く訳なんでね、最終的には、僕が言いたいのは、ネットを皆さん見ている人がおったら、市役所のホームページは非常に役に立ちますよと、そういうことを市役所はPRしてやらにゃあいかと、勉強させて頂いております。それから、今日、倉敷の消防の方で、若い人なんですけど、震災のメンバーがあって、彼が言うには僕は残念ながら震災のメンバーに入れなかったんだけど、市の中では頑張っているという事で、1ヶ月のデータを言ってみて、150件出動があるそうです。すごいなあと思ってねえ、寝る暇も無いんじゃないかと、それは火災だけでなく、救急とかそういうものでものすごいらしいんです。実際、目に見えないところで、職員の方は頑張っておられるんだなあということで、市役所を見るのも変わってきたし、市長だけじゃなくて、一般職員の方も頑張っておられるということを感じました。

だから我々はこういうハザードマップを見て勉強するし、ここで勉強したことを必ず町内に帰って報告して、検討したいと思います。

《市長》

はい、有難うございました。市のホームページの宣伝までして頂きまして、有難うございました。

また、消防局の職員も褒めておきたいと思いますので、誠に有難うございます。今言っただけのように、さっきも言って頂きましたけれども、我々はなかなか気づかない所も有りますので、水路とか道路で、土木委員さんを通じてと言うのもあるんですけど、それ以外でも結構気づかないこともあると思います。教えて頂いて、必ずしもそれが全部対応できるか判らないんですけど、まず教えていただかないと判らないと思いますので、大変ありがたく思っております。有難うございます。

《参加者Gさん》

茶屋町地区の商工会の代表をさせて頂いている〇〇といいます。この場を借りて東日本大震災の復興の義援金活動に御協力いただきまして、改めてお礼を申し上げます。

先ほどから、防災の話色々説明いただきました。人の命の関わる非常に大事なテーマでございますが、私たち市民としまして、普段のいわゆる私たちの生活における防災まで行かないまでの、免災と申しますか、そういった意味で市長さんが、目玉がないとおっしゃってたんですが、実は僕は秘策を持ってまして、30年位前にタバコを買いに行きまして、その頃、ちょうどローソンが出来たばかりで、店員さんもどのタバコですかと、うろろうされていて、番号をうったらいいですよと、それで1番、2番とうって買い易くなって行くと、一種のアイデアを提供した経緯がありまして、あつという間に全国にタバコが買い易い方式が整っていった訳ですけど、何が言いたいかといいますと、コンビニの最大利用をしたいいわゆる免災というか、AEDが有りますよね、あれを24時間稼働しているコンビニに、まず倉敷市が全国で1番のスタートを切って、設置の普及を進めて行って頂ければ、私どもが市民というか、町民として、ここにもありますけど、夕方になると、閉まってしまって夜中は利用できません。そういった事で24時間開いているコンビニを如何にうまく利用させていただけるか、それには色々スキームがあってルールがあるでしょうけど、全国に先駆け、それを御検討いただけたら、有り難いなと思っております。

《市長》

はい、どうも有り難うございます。今災害に関するコンビニの利用のアイデアを言って頂きまして、誠に有難うございます。現在は、まだコンビニの利用のところまでは行っておりませんで、さっきお話の途中で申し上げましたけれども、市内の私立大学と協定を結んでの利用とか、それから大きな例えばニシナさんとか、天満屋さんとか、もしくはイオンさんとか、そういう大きなショッピングセンターの皆さんに、災害が起こった時に、食料とか水とかを緊急で提供していただけるような協定を結んだりとか、まだそういう段階でございます。今言っただけのAEDの設置ですけど、今市でコンビニにAEDを置くことはやっていないんですけど、今のところ市の公共施設に、今、閉まると言われまして、その問題点が有ると思うんです。何ともわかにお答えするのは難しいですけ

れども、例えば補助金とか、県を通してコンビニさんが付けて頂き易くするような政策もあるかも知れませんが、他に公共施設がない所は、コンビニなのか、民間の施設にお願いすることもあるかも知れませんが、言われたようにそのAEDなどの機能の、救急の機械の設置は、進めていきたいと思っております。具体的に、これで直ぐにできますと言えないで、申し訳ないんですけども、アイデアを頂きまして大変有り難く思っております。有難うございました。

《参加者Hさん》

この前の時に茶屋町の用水の川ざらいについて、申し上げたことがあるんですが、この前茶屋町へ何人も他の地域の方が、おいでになって用水の水が沢山有った時分です。水の有る風景が綺麗ですねえと、こういうふうに関心して帰られた。ところが、これから渇水期になりますと、下の沼が、泥とゴミが見え始めます。そして夏に水が減りますと、それが腐敗して色が変わって誠に汚い用水になるんです。そういうことで、浚渫について、またいつかの機会にお考えいただけるならば、有り難いと思っております。以上です。

《市長》

はい。今後、市で全部出来ない部分もあって、地域の皆様の御協力なしでは、出来ない訳でございますが、市でもこの用水路の浚渫をする機械なども今年度1台購入もいたしましたので、大規模なものにつきましては、使える所もあるかと思っておりますので、今後、ご相談をさせて頂きたいと思っております。

《参加者Iさん》

本庁と茶屋町は格付けがあるんですか。というのが本庁でしたら、よけい出来るんですわ。茶屋町支所でしたら、なかなか具体的に、何年も要望して、それを本庁は聞いていないとおっしゃるんです。これはおかしい話で。幸せな生活を営むために納税しとる訳ですからよろしく願います。それから子どもを育てるのは、倉敷が市長の公約でもありませんけれども、学校をきっちりして貰って、児童公園を作ってもらおうということで、よろしく願います。

《市長》

さっきの本庁と茶屋町の支所とで、なかなか通じてない場合も有るということでございます。そういう場合がある場合は大変申し訳なく思っている訳でございますけれども、そのあたりを、色々地域で御要望を受けられて、本庁へ言うてくださるのも、是非お願いしたいし、支所にも、支所であるのはここまでだからと、あまり区切らないでちゃんと本庁に言うて貰えるように、意思疎通を良くする様にしたいと思っております。地域のことは、今日、コミュニティの皆さんのお話もございましたけれども、コミュニティの地域の御協力なしでは出来ませんが、地域の市議会の先生をはじめ市議会で最終的には予算も決めていただくこととなりますので、市の執行部と議会の両輪で市政が進むということになりますので、御協力のほどお願いをしたいと思います。今日、茶屋町小学校についてのご意見が随分、やっぱり地域の要の施設だと思っておりますので、いいものになるように今日のご意見もしっかり頂きまして、また考えてご説明をして全体像を組み立てさせて頂きたい

と思っております。

《参加者 I さん》

口頭で言うより資料をこしらえてきましたので、これを検討して頂きたい。大まかに言いますと、子どもの通学路の水田の際の段差が200ミリ位あります。幅が約300から400。車が通る、子供が砂を田んぼに入れる、という事で農家から苦情が出ています。というのが私も土木じゃないんで、民地か官地かの境があると思うんですけど、その調査をした上で、早急に検討してください。

《市長》

はい。また後ほど頂きまして。後ほどお話を伺いたいと思っております。それでは、ちょうど時間になりましたので、今日のふれあいトークということにさせて頂きたいと思えます。今日は色々な観点からご意見を頂きまして有難うございました。茶屋町地区の発展のために、今後とも努力してまいりたいと思っております。今日は有難うございました。今後ともよろしくお願ひします。